

滝上の人

変化を恐れず前向きに

今回は、滝下 因 隆博さんにスポットをあてていきます。



コミュニティ団体「ずんだクラブ」で収穫した枝豆を取る因さん

因さんは、昭和25年生まれの70才。4人兄弟の2番目として、滝上町雄鎮内で生まれました。家は三重県から入植して、因さんで3代目とのこと。家業は畑作農家でした。

小さい頃の思い出として、昭和29年に発生した洞爺丸台風の際に、馬小屋の屋根が飛ばないように、大人達がロー

若い頃について教えてください。

中学校卒業後は、十勝の別町にある、道立農業講習所（現農業大学校）に1年間通いました。ここで酪農に出会った。「農業の基本は土作りである」ということを教わりました。こちらで学び、経験したことは、農業で身を立てるための糧になりました。

昭和40年代の頃は、それぞれの地域にクラブが数多くあり、地域の青年活動も活発に行われていました。

青年活動の中でも、農業の所得向上を目指し、講習会や勉強会などに参加して、農業簿記や青色申告といった経営についても学んでいきました。

昭和50年代の頃は、まだ50戸強の酪農家がありました。この頃から農業の機械化が進み、酪農の仕事も様変わりして、農業経営規模の拡大に進んでいきました。

昭和59年、34才の時に町と農協から旅費の助成を受けて、海外の農業視察研修に行かせてもらいました（イギリス、ドイツ、フランス、イタリア、スイス、オランダ6カ国を訪問）。「百聞は一見にしかず」で、それぞれの土地に合った農業というものを広く見聞する事ができ、農業を営んでいく上でも有意義な視察となりました。

地域活動にも熱心に取り組まれています。

農協青年部長を務めた昭和60年に、婦人部と協同で秋の収穫祭の企画を立ち上げると、収穫祭は人気を集めて大いに

盛り上がりました。それ以降14年続く人気のイベントになりました。

この企画を1年で計画し、実行出来たことが一番うれしかった思い出です。

地域活動として、子供の成長と共に、小学校、中学校、高校とPTAの会長を務めさせていただきました。その頃、昭和から平成へと時代が移り変わり、環境の変化も始まっていたと思います。

高齢化による離農や人口減少が進み、地域での自立もなかなか困難な状況になってきていると感じています。

農業を取り巻く環境も変わっていき、農業共済組合の合併があり、さらに農業協同組合も合併するといった大きな出来事を経験しました。これまで培ってきたものが合併するということは大変な事であり、時間というものがものすごく大事であると痛感しました。

物事は様々な形で時代と共に大きく変化していき、変化に逆らうことは出来ませんが、どんな時でもいかに自分が困難を乗り越えて、自立を目指していく事が大切である、と思っています。

皆さんにひいとお願います。

これまでの歩みの中、自身に与えられた役目だと思つて、公職や町内会をはじめとした団体などの役職を務めてきました。

70才になり、これまで経験した事に何ひとつ無駄はなかったと思つています。

仕事の上での試練もありましたが、仲間や地域の方々に支えられて乗り越える事ができ、現在に至っています。

現在のコロナ禍で、日常もまた変化していきませんが、これからも、それぞれに与えられた役目を理解して、解決策を求めて努力していきたいです。そして、若い世代にどうやってバトンをつないでいくかを考えて、実践していければと思つています。



消防団員の勤続表彰で町の表彰式に臨んだ時の因さん